

さやいんげん

マメ科：メキシコ南部～中央アメリカ

栽培暦

月	2			3			4			5			6			7			8			9			10			
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
主 な 作 業	つる 性 種	<p>播種 5月上旬 間引き 5月中旬 支柱立て 5月下旬 追肥 6月上旬 誘引 6月中旬 追肥 6月下旬 中耕 7月上旬 収穫 8月上旬 追肥 8月中旬</p>																										
	わい 性 種	<p>播種 5月上旬 間引き 5月中旬 追肥 6月上旬 中耕 6月中旬 追肥 6月下旬 収穫 7月上旬 追肥 7月中旬 開花 7月下旬</p>																										

■栽培のポイント

1. 畑の水はけを良くする。
2. 過乾燥、過湿を防ぐ。
3. 連作を避ける。

■品種 つる性種（つるあり）、ケンタッキーワンダー、いちず。

わい性種（つるなし）、さつみみどり2号、レグルス。

■播種期 晩霜の被害の心配がなくなる5月中旬以降に播種する。わい性種は、播種後1か月半～2か月でいっせいに実がなり、収穫期が短いので10日位ずらして数回播種する。

■播種準備

ほ場 連作すると生育が悪くなるので、2～3年の輪作とする。過湿地では根腐れを起こし落葉、生育停滞、収量低下を起こしやすいので、高うねとし排水を努める。また、肥沃地を好むので、堆肥を多く与え、できるだけ深耕する。

堆肥 堆肥、苦土石灰を全面に施用し耕起する。その後基肥を散布して耕起する。

播種床 つる性種では、うね幅2.5m、株間30～45cm、条間60cm2条植えとし、遅播きの場合は、株間を25～30cmとする。わい性種では、うね幅60～90cm、株間20～30cm1条植えとする。

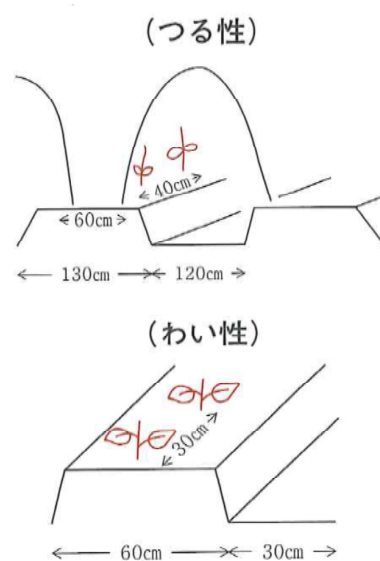
播種 1か所に3粒播き、2cmくらい土をかけ、しっかり押さえて種子と土を密着させてから水かける。

施肥例

(a 当り)

うねつくり

肥料名	基肥	追肥	備考
堆肥	300kg	—kg	pH 6.0 を目標に改良する。
苦土石灰	15	—	成分量(手あり)(手なし)
ホーソ入りそさい2号	8	—	窒素 2.1kg 1.5kg
苦土重焼燐	5	—	燐酸 3.0 2.6
燐硝安加里 S 604	—	(つる性種) 8 (わい性種) 6	加里 1.7 1.2



■栽培管理

間引き 本葉が2枚になった時、2本立てとする。欠株を生じたところは、補植用として準備した苗か、間引きの時の苗を、根を傷つけないよう掘り取り補植する。

支柱立て、ネット張り 竹や鉄パイプを用いて支柱を立てきゅうり用のネットなどを張る。

追肥 つる性種では、開花始めの頃から2週間間隔で数回行う。わい性種では、播種後30日頃とその後2週間目頃の2回行う。

土寄せ わい性種では、草丈が20cm位の時に、株元へ土寄せする。

誘引 つる性種では草丈が50cm位になったらネットへ誘引し、つるがネットに適当な間隔で巻くようにする。

敷きわら つる性種では7月以降の高温時に、地温の上昇と乾燥を防止するため敷きわらをする。

摘心 つる性種では、つる先が支柱の肩に達した時に摘心し、ネット上部から、光が十分入るようにする。

病虫害防除 生育初期よりアブラムシやフキノメイガ等の害虫の発生に注意し、初期防除に努める。

■収穫 開花から12~15日位の種の部分がふくらむ前の若い莢を収穫する。大きさは、15cm位とする。

収量はa 当り、つる性種で100kg、わい性種で70kg位である。